

地域の交流拠点に

東濃信金研修所7日開所

東濃信用金庫(市原好二理事長)が多治見市虎溪山町に整備してきた研修センター「とうしん学びの丘 エール」が7日にオープンする。円形型の3つの施設と、サッカー競技ができる多目的の人工芝広場を併設する同センターは「開かれた施設」として企業の人材育成と地域の交流拠点を目指す。(岡田敬史)

日曜 映写記

虎溪山永保寺近くの1万5千平方メートルの敷地に完成した研修センターは、同信金の金庫蔵である3つの輪をイメージした外観。3階建ての研修棟は、1階に3室のコミュニティルームを配し、2階には掘りごたつ形式の和室も設けている。職員の研修のみならず地元企業の研修や地域コミュニティの場としての舞台付きホール。美濃焼文化を発信する展示棟は、同信金が1986年から行っている永年保存事業で買上げた美濃陶芸の作品を展示。回遊型の展示スペースで人間国宝から新鋭陶芸家の作品を入場無料で堪能できる。全面人工芝の芝生広場は、小学生のサッカーの試合のほかにレクリエーションの場ともなる。



7日にオープンする「とうしん学びの丘 エール」
＝いずれも多治見市虎溪山町

巨匠から新鋭まで永年保存事業で買上げた美濃陶芸作品が並ぶ展示棟



美濃焼展示棟、芝生広場も整備



可動椅子が207席あり、300人を収容できるホール



サッカーができる人工芝の広場。レクリエーションなどにも使用できる多目的広場

23日には学びの丘で本年度から始まった市教委の「土曜学習」の開講式が行われる。